

第2号様式（第12条関係）

令和元年度 第4回 大和市街づくり推進会議 会議要旨

1 日時 令和2年2月13日（木） 15時00分から16時45分

2 場所 大和市保健福祉センター 4階 講習室I・II

3 出席者 9名

4 傍聴人数 0名

5 議題

- (1) 都市計画マスタープランの改定について
- (2) 大和市街づくり賞について

6 その他

会議資料

① 次第

② 資料1 都市計画マスタープラン 改定の流れ

③ 資料2-1 序章 都市計画マスタープランの前提

④ 資料2-2 第1章 全体構想

⑤ 資料2-3 第2章 地域別構想

⑥ 資料3 大和市街づくり賞について

## ■令和元年度 第4回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和元年度 第4回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和2年2月13日(木) 15時00分から16時45分

[開催場所] 大和市保健福祉センター 4階 講習室Ⅰ・Ⅱ

[出席委員] 9名(欠席:2名)

[出席]: 黒石 いずみ/杉崎 和久/菅 孝能/江村 郁子/蓮沼 聡紀/星野 澄佳/  
山田 俊明/須賀 良二/宇津木 朋子

[欠席]: 河村 奨/松本 久美

[事務局] 12名(街づくり計画部部付担当部長、街づくり総務課長、街づくり調査係3名、街づくり推進課長、街づくり推進係3名、大和駅周辺市街地整備支援係1名、街づくり総務課事業委託業者2名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel. 046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

1. 開会
2. 議題
  - (1) 都市計画マスタープランの改定について
  - (2) 大和市街づくり賞について
3. その他
4. 閉会

### II. 内容

1. 開会
2. 議題
  - (1) 都市計画マスタープランの改定について

質疑応答(○…委員 ▼…市)

事務局より説明後、質疑応答。

○ありがとうございます。議題2の方も大事な議論なので、都市計画マスタープランの改訂(以後:「都市マス」とする)について、順不同で構わないので、ご質問やご意見をいただきたい。

○地域別構想の資料が出てきて、全体像が見えるようになった。

今回の都市マスが一番のキーワードは「居場所」だと思うが、「目指す都市」の中にも、テーマ別方針の中にも出てくるにもかかわらず、「居場所」についての定義付けがない。

一般的には、「居場所」というのは「個人が孤立せずにいられる場所」や「ありのままの自分が受け入れられる場所」という意味で使われている。本案では、そういうものが都市の中になので自分たちで作り、自分たちで運営し、お互い助け合いながら生活の質を向上させるものだという事が書いてあると理解するので、このような考えと都市マスがどう絡むのかをまとめる必要がある。

そのような点で「拠点」と「居場所」は全く異なるものなので、定義をはっきりさせる必要があり、地域別構想で「居場所」の話が一切出てこないのはおかしい。

また、都市づくりの6つのテーマについて、居場所の「創出」・「形成」・「育む」というように、大きく3つに分けているが、これは違和感がある。

1つ目は、人と人の繋がり、ネットワークづくりが大切であること、2つ目は、孤立しないで安心して生活が出来る「居場所」をつくること、3つ目は、市民、事業者、行政が3者協働による「居場所」をつくることだと思うが、「居場所」の“創出”と“形成”が似ているため、整理が必要であり、整理が出来ると充実した都市マスになるのではないか。

○「居場所」については、前回も活発な議論になったが、都市計画審議会（以後「都計審」とする）では特に指摘はなかったのか。

▼都計審でも、「居場所」については、表現として抽象的すぎると意見をいただいた。事務局としては「誰もが、どこでも、いつ何時も、大和市に居場所があり、価値観を見出せる」というイメージを持っている。しかし「居場所」という言葉だけでは、表現出来ないため、目指す都市として4つのキャッチコピーを出している。

「居場所」というと、場所的なイメージに捉われやすいため、具体的な表現も含めて検討を進めているところである。

○「居場所」については、「そのような街になりたい」というようなイメージがあるのではないかとと思う。「居場所」をつくる訳ではない。

▼市民の方々に「大和って良い場所」と思っただけのような「多様な居場所」をイメージしている。

○「居場所」という言葉は、20年ほど前から使用されていて、建築学会等では定義付けされているが、大和市での使い方がこれとは違うため、はっきりと定義付けしないと誤解されてしまう。

○物理的な建物があってという「居場所」ではなく、大和市にいて「居場所」なんだと認識することなのか。

○ここでは、そのような意味で使われている。

○それならば、都市マスの「居場所」は、「市民が大和市に帰属感を持ち、誇りや愛着を感じること」を意味していると思う。

○事務局からの説明では、もう少し物理的な空間的なイメージに近い印象を持ったが。

▼そうではなく、端的に場所や建物ではなく抽象的なイメージであるため、わかりづらいという意見が都計審から挙がったということである。

○定義づけが難しくなるのではないか。

○今、定義づけのためのヒントが沢山出てきたと思う。そのような説明がないため、わかりづらいということである。

▼目指す都市の中で、わかりやすく語句を整理したい。

○計画というのは、問題に対する回答や方策として提出されるものであると考えるが、今回の資料を見ると、課題認識はされているが解決策がないように感じた。

「居場所」の説明についても、地域ごとに問題を認識しているのであれば、解決策として具体的に「居場所」を用意するというような回答をしなければいけないのではないかと。

▼現況の大和市の特性の優れた点や課題から、都市づくりの視点を見出して、テーマ別方針で解決方法を示している。現時点では概要版であるため本編では、ご意見を参考にまとめる予定である

○実現手法が弱いということだと思う。

▼地域別構想の中で、具体的な取り組み等も検討していきたい。そのような中では、街づくり条例を踏まえて、もう少しソフト的な面についても言及していく余地があるのではないかと考えている。

○地域ごとに重点項目が違ってくると思うが、総花的に見えてしまっている。

○真の人間関係が構築されるということが、安心や快適性につながると考えるが、このような人間関係が構築される空間の在り方について示すことが、真の街づくりであると考えている。南林間・鶴間地域では、木造密集地域について火災時のリスクをどのように解決するのか気になった。また、このエリアは市民の協力で保存されていた緑があったと思うが、これらがどんどん住宅に変わっているので、他の地域も含め緑を誘導する仕組みはないのか。

また「拠点性の強化」とはどのような意味か。見方によっては強化かもしれないが、アーバンとルーラルが混ざったものが、大和市の味だと思うので、大和らしいものに繋がるのが大事なのではないかと。

○今後は新しく物を作るという事ではなく、そこの場の使い方を変えていこうということだと思うが、そのような話がない。

例えば公園では火を焚いてはいけない等の規制があるが、焚いてもいいというような、市民がもっと使いやすく生活を楽しむために、自由に使えるようにするなどの話しが滲み出てくると方向性が見えてくるが、従来のスタイルに仕立て上げるようにしか読めない。そこを明確にすると「居場所」のイメージが出来るのではないかと。

○この資料を見ていて、何が大きく変わるのか、今までとあまり変わらない印象を受けた。今は暮らしやすいと言えば暮らしやすいが、10年後、20年後を見据えた都市の姿がわかりづらい。

○今後は、大きく何かを作って変わっていくという時代ではない。むしろ、このままでは悪い方向に変化していくのを、少しでもポジティブにしようという発想だが、都市計画として出来ることは限られている。そういう時代感をどのように記載するのか難しいところである。

▼これから人口は減少していく中で、いかに都市構造を維持していくのかが重要になってくる。公園1つにしても、各地域で考え方や保全の仕方は違うため、具体的な内容は計画には書きにくい。

「拠点性」については、立地的適正化計画の中でも述べているとおり、小田急江ノ島線の各駅を中心とし、都市機能を集約して「拠点性」を高めるとしている。その周辺を住みやすい住宅地とし、緑や農地を出来る限り残していく内容となっており、日本全国そのような方向性で進んでいると認識している。大和の場合は駅が多く、大和駅周辺を「中心拠点」、小田急江ノ島線上の他の駅周辺を「地域拠点」、つきみ野・相模大塚駅周辺については「生活の拠点」と位置づけている。このような立地適正化計画の考え方を基に「拠点性」と記載している。

○公共施設の再配置や再編に関する「拠点」と、生活の周りの地域で支える「居場所」の話とを整理するとわかりやすい。

▼現行の計画の策定時は、人口増加の中で基盤未整備地区は区画整理や再開発を行い、都市をつくって拡大していく流れであったが、今後は拡大していく必要がない状況になった。

地区計画のようなルールづくりによるまちづくりも行ってきたが、空き家や農地、「居場所」等、都市計画の括りでは解決できないような新しい課題が出てきた。

法定都市計画では対応できないが、都市マスに記載することで、まちづくりを進められるきっかけとなれば良いし、都市マスをつくる上で、大切なところだと感じている。

「まちづくりの方針」の具体的施策については、「居場所」を頭に入れながら再度、検討して整理していきたい。

○地域別構想の高座渋谷地区で、左馬神社周辺の樹齢数百年の大木があるエリアが「歴史と憩いを感じられる、ゆとりのある住環境の維持創出」エリアに入れられていないことが気になった。

避難所についてだが、小田原市では幼稚園・小学校・中学校が避難する場として機能するように電力が自給され、条例も制定されていると耳にした。大和市においても避難所機能として最低限このレベルまでは確保したいという共通認識のもとに準備を推進できたら良いと思う。

▼大和市では小学校などを、避難場所に指定している。地震は揺れが落ち着けば帰宅できるが、水害等ではそこで生活をしなければならない。電力等、そこで住まわすような場所の確保も必要になってくる。安全・安心というところは大和市においても重要な視点である。

被災後の仮設住宅については、建設場所の検討は済んでおり、当然、下水や電力等のライフラインも含めて検討を行っている。

○「目標とする都市の姿」と「その実現に向けた方向性」とあるため、具体性のあるものを記載するのは難しいと考えている。例えば、道路を整備した方が良いぐらいは記載できるかもしれないが、どことどこの道路を整備する、中央林間駅の出口をもう1つ増やすなどという具体的な政策を記載するのは難しいという印象をもった。

○逆に、都市マスはそういったことを書かなければいけない。行政が行う都市計画は、都市マスの中に書かなければいけない。

○方向性のレベルで示すのではないのか。

○そうではない。行政が行う都市計画は、都市マスに記載がないとできない。

○そうであるならば、「目標である都市の姿」に記載されているのは、大和市全体のことで地域別の具体的な方向性は文章で追加されるという理解で良いか。

▼全体的な施策の方向性は全体構想で記載するが、今後取り組まなければならない具体的なものについては、地域別構想で記載する予定である。

例えば内山地区が、市街化区域編入に向けた取り組みを行っており、都市計画道路の整備を今後はしていかなければならない。そういった具体的なところを地域別方針の中に記載していき、具体的に整備を進めていこうと考えているものは記載していく予定である。

○「目標とする都市の姿」で大和市全体が記載され、地域別構想では具体的な施策が追記されるという理解で良いか。

▼その通りである。本日の地域別構想は図面で表しているが、本編では文章でも記載する。

○期待している。

○今回の資料は概要版である。実際に、本編は冊子となり肉付けされたものになる。

市が行う都市計画は、マスタープランに記載しなければならないという重みがあるが、都市計画の範囲は皆さんがイメージするものより、実際はかなり小さい範囲である。都市計画の範囲のみで記載すると、一部の都市計画道路の整備や市街化編入程度の内容に限られてしまうため、もう少し広めの視野で記載することになるが、具体的な記載や実現性をあまり見込めないこともある。

▼都計審の中では、都市計画マスタープランの名称について法定都市計画以外の分野もあるため、「都市マスタープラン」や「都市づくり」、「ビジョン」といったように、もう少し柔らかい表現にしてはどうかという提案があり、検討しているところである。

○地域別構想の中の、中央林間・つきみ野地域の中に「世代間人口バランス確保の推進」という記載があるエリアがあるが、具体的な方策があるのか。

▼「世代間人口バランス確保の推進」については、立地適正化計画において、世代間人口バランスの確保を図っていくこととしているが、つきみ野地域では高齢化が進行して、住み替えがなかなか進んでいない。子育て世代の方にも住んでもらえるように、例えば空き家の住み替えの促進等が考えられるが、それは市だけでは出来ないことであり、都市マスの中にどう記載していくか検討しているところである。

○つきみ野地域では、住環境を守るためのルールによる縛りが強すぎるのではないかという意見が出ている。

○課題は認識していてアイデアもあるが、都市計画として対応するのは難しい。

▼つきみ野エリアは1戸1戸の敷地面積が広く、若い人の住み替えがなかなか進まないことが課題である。他の自治体でも同様の状況にある。そのため、地域・事業者・市が協働で何か取り組みを考えていく必要がある。具体的な施策は述べられないかもしれないが、方向性は示していく。

また、子育て世代を呼び込めるような公共施設整備についても、何か挙げられれば検討したい。現在は中央林間駅周辺で重点的に取り組んでいる。

○公共施設を新たに建設する土地がなく、作り変えるような資源もない。

▼鉄道事業者の協力を得ながら進めたいと考えている。例えば、駅周辺で高度利用を図る際には、低層階の床を借りる等、敷地がなければ、シリウスと同じような考え方で検討を進めることも可能かと思う。

○東急電鉄と勉強会を行っているが、事業者は、沿線の人口分布も分析が進んでおり、どこに資本投下をすれば効果が出るか把握できている。

行政は利益優先ではなく、地域課題をどのように解決していくのかが行政の施策であると思うが、事業者と協働する際には市としての方針を持たないと住民は不安を感じるのではないか。

○今後の予定について、この先は推進会議と計画策定のタイミングが合えばということだと思うが、パブリックコメントの前後に街づくり推進会議が予定されている。計画の内容について、意見を述べられるのは本日が最後となる。

▼現行の計画の策定から20年が経過しているが、基本的な方針は継続していくという認識であり、今回の改定で180度方向性が変わるものではない。

公表は来年度の上半期中という目標を定めているが、今後ともご意見を頂きたい。

○最後に1つだけ確認したい。この会議の役割として、現段階で意見交換会やパブリックコメントはどのように行う予定なのか、確認したい。

▼意見交換会については、市内を北部・中部・南部の3つに分け、説明会のような形ではなく、一定の時間、自由に来ていただける会場を設けて、概要版の資料等を個別に見ていき、意見があればパブリックコメントとして提出出来る形式を検討している。

○ありがとうございました。以上で議題1の方を終わりにします。

## (2) 大和市街づくり賞について

質疑応答 (○…委員 ▼…市)

---

事務局より説明後、質疑応答。

○例年通り開催ということだが、応募が減っている現状について議論したいところだが時間がかかると思われるため、先に「街づくり賞」で受賞者に贈られるプレートについて議論したいと思う。

プレートの実物を見ると小さいように思うが、これは受賞者には個人宅等も含まれることから、そのバランスを考えてのことのようである。

○大きさを3種類作って、受賞者が好きに選べるようにしてはどうか。

実際、現場を回ると、受賞を恥ずかしがっているところもある。

○受賞者が貼らないという選択肢もあるのか。

▼それは構わない。

○私がイメージしていたのは、イギリスのロンドン郊外にあるハムステッド等の田園都市のとても古い建物を保存しているところにある、「ブループレート」と呼ばれる青いプレートだった。受賞者は、これを贈られることを非常に名誉に感じている。これを探して歩くような人もいて、素敵なデザインである。そのようなきれいなデザインにするべきではないのか。

大きさとしては、直径15センチメートル程度はあった方が良いのではないのか。

○きれいなものがよい。

○「かっこいい」「きれい」なものが良い。

「街づくり賞」で贈られるプレートのデザインが悪かったら逆効果である。

○何をしたらもらえるのだろうと興味を引くデザインにするべきである。

○多少、プレートに重みも必要ではないか。

○陶器やガラス等も良い。厚みがあるものやホーローや銅も素敵である。

○作るときは、毎年作るというよりは数年分まとめて作るのか。

▼過去の受賞事例のものも含めて、作る予定である。

○以前「街づくり賞」を受賞したときに贈られた置物を置いておくと、来客の目を引く。誇らしげに見せられるものが良い。恥ずかしく思う人は出さなければ良いのではないのか

▼これまでは、ガラス製の楯を渡しており、今回はこの他に記念品としてボールペンを渡していた。

このボールペンよりは外にアピールできるような何かにしていった方が良いのではという判断から、ボールペンに変わるものとして、このプレートを考えていた。いただいたご意見を踏まえると、むしろこの楯を無しとした方が良いか。

(多数の委員より) そう思う。

○見てわかるものにするべきである。誇らしく思えるものとして、飾りたい人だけが飾ればよい。

○そうするとデザイン性が大切である。四角いプレートだけでは物足りない。

○これ以上、議論してもこの場では「誇りに思うもの」としか言えない。

次回は、見本が出てくるのだろうか。

○デザインしたプレートが「街づくり賞」のチラシに必ず、ロゴとして入っていれば、市民の間に認識も広まるのではないか。

○例えば、横浜市のまち普請事業のプレート等、他市の物を参考に検討すべきである。ぜひ次に期待している。

○次は次回の「街づくり賞」の開催内容についてであるが、進め方やテーマを絞らず議論していきたい。アイデアがあれば出してもらいたい

○市のホームページの「街づくり賞」のページについて、閲覧数はどこかで確認できるのか。

▼市のホームページ全体では把握できるかもしれない。

○テーマをあえて設けず、原点に戻るといえるのは良いのではないか。テーマを設定せず、「街づくり賞」がどういうものであるかを改めて市民に広く訴えかけるという意味で、良いのではないかと思う。

○全くテーマを設定しなければ、こちらのメッセージが伝わらないのではないかという気がする。

○文系の学部で街づくりや都市に関する授業で学生に教える時、最初の街歩きの際、例えば店舗は除くとの条件を付けて「あなたの好きな場所」を探してくる様にとすると、各々が見つけてくる。一般人がわかりやすい言葉で伝えるべきである。

○子どもでも理解しやすい言葉が良い。

○数が多く集まれば良いものでもない。毎回、応募数が少ないとはいえ、選考時に現地調査をすると、だいたいちょうど良い量である。「街づくり賞」をなぜ行い、そして次に生かす戦略として、どう生かすかが重要である。

○さきほどの都市マスではないが、「あなたの好きな居場所」というテーマにしてはいかがか。大和市民が「居場所」という言葉で想像し、「居場所」という認識も広まる。

○それはよい。

○テーマにしては良いのではないか。大和市民が「居場所」を見つける事に繋がる。

○クリストファー・アレグザンダーのパタン・ランゲージについての講義を行うとき、具体例として、木陰や花が咲いている場所等、街には「居心地がいい」場所を作っていると説明すると、わかりやすい。「居場所」という言葉にして良いのかはわからないが。

○外観だけでなく、店舗でも構わない。

▼過去の受賞者には店舗も含まれている。

○「居場所」という言葉を使用すれば良い。

○意味としては深い。

○定義づけをしないで使用するのが良いだろう。

- 定義づけをせず「特別な、素敵な空間」でも「心地いい空間」でも良いだろう。
- 居酒屋なども出てくるだろう。
- 今年のテーマが決定したのではないか。切り口が違って良いのではないか。
- ▼他の人が気づかされる部分が見えてくることもあるだろう。
- 中高生から出てきたら理想的だと思う。
- ▼想像していなかったものが出る可能性もある。
- 「大和市ウォーキングマップ」というものを、健康づくり推進課で発行している。ここでは大和市の11のウォーキングコースを紹介しているが、これまでの街づくり賞受賞事例も含め、こういうものとタイアップして、街づくり賞受賞の場所を巡るコースとして作ってはどうか。
- 「街づくり賞」ではなく、「街づくり学校」のテーマにして巡るコースを作るのも良いのではないか。
- 「街づくり賞」のPRにもなるだろう。
- 議題1の都市マスの議論も含め、都市計画や街づくりの変化していく様子の先に「居場所」というものが見えてくるのかもしれない。
- 私たちがイメージしているコンセプトが通じるのかが心配である。  
 広報の仕方で、若い人に参加してもらうのであれば、直接出向くという選択肢もあるのではないか。  
 また、将来的に、高校でサークル等を作って、街づくりをしている年配の方たちと交流を持ってくれたら理想的である。
- 募集をかけて、どのように盛り上げていくのかが重要である。
- 持続可能な開発目標（SDGs）に即した手法を、実際の授業でも取り入れている。例えばポイント付与などを行うことで、高校生が街づくりへ積極的に関与していくことを奨励していけると良い。
- 関与させる方法はいくつもある。しかし「居場所」と言い切るのか、工夫が必要になるだろう。
- 街づくり賞の応募は、例えば看板や建物等、業者が紹介や推薦を行っても良いのか。
- ▼構わない。
- 良いものであれば、良いのではないか。むしろ、周囲に勧めて広めてもらえると良い。
- そうすると業界からの応募も増える可能性もある。
- ▼受賞事例を参考にして、そのような良い広告物が増える可能性がある。
- 現在の応募者は、街づくりに関心のある市民である。違う立場の方からの応募によって、多様になる。
- ▼過去には、屋外広告物部門も行っていた。
- これで本日の議題を終了する。

### 3. その他

事務局より、事務連絡。

### 4. 閉会

以上